



浅葱地波千鳥文様紅型木綿衣裳 (沖縄県立博物館・美術館蔵)



紺地格子小花文様緋花織木綿袷衣裳
緑地小桜葉文様紅型木綿裏地 (沖縄県立博物館・美術館蔵)

琉球の染織に見る、周辺地域との交遊 — その模様・技法・素材から探る

2023. 7.15 土

入場無料

14:00~16:00
(開場 13:30)

※ 会場内は空調の影響で寒くなる場合があります。

会場 3F 講堂

受付 当日先着 (定員 200 名)

お問合せ 098-941-8200



〒900-0006
沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1

あなたの沖縄に出会う

沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

紅型のデザインは日本の友禅染の影響を受けていると言われてきましたが、実際にはこそでもようひながたぼん小袖模様雛形本や、京都のべいすじ紅板締めべいすじのデザインなど、さまざまな情報が好奇心旺盛に受容されていることがわかります。また、型紙の用い方に注目すると、実は、古く 16 世紀後半頃に、日本と琉球が共通した技法を用いていた可能性がうかがえます。絹地や色料については、広く東アジア・東南アジアを含めて考えるべきでしょう。さらに、首里織物・花織・芭蕉布・久米島紬・八重山上布・宮古上布といった織物の模様・技法などを見ると、日本よりもむしろ、東アジア・東南アジアからの影響を受けながら、その一方で独自の素材を用い、琉球にしかない意匠を育んできたことは明らかです。琉球国時代の染織文化を通して、この時代における琉球と周辺地域との多様な交遊についてみていきます。



おやま ゆづる は
小山 弓弦葉 氏 (東京国立博物館)

お茶の水大学卒業。東京大学大学院博士後期課程修了。博士(文学)。奈良県立美術館で学芸員を7年間勤つとめたのち、東京国立博物館研究員として現在に至る。中心とする研究テーマは、日本・アジア染織文化史。

【開館時間】 9:00-18:00 (金・土は 20:00 まで)
【休館日】 月曜日 (月曜祝日の場合は翌平日休館)
※メンテナンス休館 6/28 (水) ~ 7/6 (木)